

今週（3月26日から3月30日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して年度末の諸払い等が行われたことで、当座預金残高は370兆円台半ばから後半まで増加した。無担保コールO/N物は、年度末の諸払いの影響で地銀中心に調達が低調となった。証券・外銀の調達が下支えとなったものの、一部のオファーが出し残る局面も見られるなど、弱含みでの推移となった。業態別では地銀で▲0.086～▲0.035%、証券で▲0.086～▲0.070%、外銀で▲0.085～▲0.035%程度の出合いとなった。ターム物は週後半にかけて4月スタートの引き合いが見られるようになり、▲0.030%程度の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは29日に2W・8,000億円と3M・5,000億円がオファーされた。結果は2W物1,270億円（期落ち額1,430億円）、3M物150億円（期落ち額20億円）の応札でいずれも未達となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、期末初物を除けば概ね▲0.135～▲0.100%程度の水準で推移した。26日のS/N(3/28-3/29)は、▲0.130～▲0.100%での出合い。27日のS/N(3/29-3/30)は、▲0.115～▲0.100%での出合い。28日のS/N及び29日のT/N(3/30-4/2)は、▲0.550～▲0.400%程度での出合い。期末を跨ぐ取引となったことからオファーが出難く、レートを大きく切り下げた。29日のS/N(4/2-4/3)は、▲0.130～▲0.120%での出合い。30日のS/N(4/3-4/4)は、▲0.135～▲0.130%程度での出合い。

SC個別銘柄では、2年384～386、5年130～135、10年335～350、20年160～164、30年55～58、40年6～10などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、入札もなく、全般的に閑散としたマーケットとなった。週前半には年度未越えの担保需要から、散発的に強めの出合いが見られたものの、受渡が新年度となった29日以降は、閑散な地合いとなった。

30日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する」と発表され、前月から表現に変更は無かった。なお、3月末の日銀の短国買入残高は18兆7,528億円となることが見込まれる。

●CP市場

今週のCP市場は、年度の期末・期初にあたり、4兆4,000億円程度の償還に対して、1兆8,000億円程度の発行にとどまるなど、例年通り大幅な償還超のマーケットとなった。年度末スタートの発行では、電機業態が1,500億円程の大型発行を実施したほか、ゴム・石油・電力などがまとまったロットで発行を実施した。年度末近辺の償還規模が大きく、週間合計としては償還超となっているものの、4月初頭のスタートで機械・商社・石油業態などが大口での発行を実施しており、今後も多くの事業法人が期中はCPを積極的に活用していくものと見られる。発行レートに関しては、市場残高が減少したことや27日に実施されたCP等買入オペの影響もあって、一部ディーラーの玉確保ニーズが極めて強く、今後発行残高の積み上がりが見込まれる銘柄であっても▲0.003～0%程度の決着が中心となり、その他の銘柄に関しては▲0.01%前後での決着が見られるなど堅調であった。

CP等買入オペは27日に事前予定通りの5,000億円で実施された。今回のオペでは、ディーラーの売却ニーズの高い銘柄が買入対象とならなかったことや、市場残高が減少したことを受けて、レート低下への期待感が強まっていたものの、平均落札レート▲0.029%、按分落札レート▲0.038%と、いずれも前回比で上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/26 (月)	20,766.10	0.020	104.98	△ 0.064	△ 0.114	3,740,100
3/27 (火)	21,317.32	0.030	105.63	△ 0.066	△ 0.114	3,752,800
3/28 (水)	21,031.31	0.030	105.48	△ 0.066	△ 0.118	3,751,900
3/29 (木)	21,159.08	0.035	106.58	△ 0.066	△ 0.439	3,764,400
3/30 (金)	21,454.30	0.041	106.19	△ 0.068	△ 0.123	3,782,900

来週（4月2日から4月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/2 (月)	3月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)				2月の米建設支出 3月のISM 製造業景況指数 EURO、London祝日(Easter Monday)
4/3 (火)	3月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TB3M 44,000億円 4/5発行	10Y 22,000億円 4/5発行		
4/4 (水)	4月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 4/12借入			2月の米製造業新規受注・出荷・在庫 3月のISM 非製造業景況指数 3月のユーロ圏消費者物価指数速報値
4/5 (木)		TB3M 44,000億円 4/9発行	流動性供給 5,000億円 4/9発行		2月の米貿易収支
4/6 (金)	2月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 3月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 2月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00) 2月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 23,000億円 4/10発行			3月の米雇用統計 2月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
4/2 (月)	900	▲ 6,100	▲ 5,200	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,500 ▲ 100 3,100	1,400 300	3,200	▲ 2,000	
4/3 (火)	1,000	▲ 12,000	▲ 11,000	国債買入		10,300	10,300	▲ 700	
4/4 (水)	1,000	15,000	16,000				0	16,000	普通交付税 地方特例交付金 税・保険料揚げ 社会保障費
4/5 (木)	0	▲ 34,000	▲ 34,000				0	▲ 34,000	TB3M発行▲44000億償還31600 10Y発行▲22000
4/6 (金)	0	3,000	3,000				0	3,000	恩給
週間合計	2,900	▲ 34,100	▲ 31,200	—	1,500	12,000	13,500	▲ 17,700	

4/2は日銀予想、4/3以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、3日が税揚げの前倒しで不足日、4日が交付税の払いによる余剰日、5日がTDB償還発行に伴う大幅な不足日となる見通し。無担保コールO/N加重平均レートは積みの後半に入ること、週半ばからが多少上昇することが予想されるものの、上昇幅は限定的と予想する。

レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。

短国市場は、3日、5日に3M物、6日に6M物の入札が実施予定となっている。入札が3本連続で行われることに加え、年度末担保需要の剥落もあり、レートの上昇が予想される。

CP市場は、事業法人が年度末に償還を迎えたCPの発行を本格的に再開することが予想され、発行残高やレート水準の推移が注目される。5日にはCP等買入オペが2,500億円で実施される予定となっている。

主要なイベントとしては、国内では2日に日銀短観、海外では6日に3月の米雇用統計の発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。